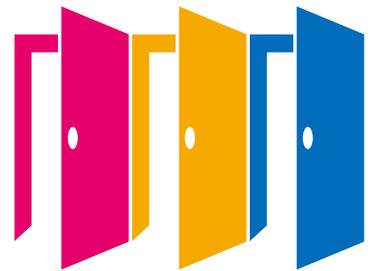


KOCHI 2020 ROTARY 2021 CLUB SINCE 1937



ロータリーは機会の扉を開く

2020-21年度 RIテーマ

週報



Weekly report 第3454回 2021年3月16日 2021年3月30日発行

● 会長挨拶

皆さん、こんにちは。昨日、高知でも桜の開花宣言がなされ、我が社の花壇にもチューリップが咲き始めました。私ども業界人がチューリップを見るとすぐ思い出すのがチューリップバブルという言葉で、人類の歴史上、最初の、また最もひどいバブル崩壊だといわれるものです。時は16世紀の後半、トルコからチューリップの球根がオランダに輸出されます。最初は種類も量も少なく、貴族やお金持ちが自分の庭を飾るステイタスシンボルだったそうです。その後、愛好家や収集家たちが品種改良などをしてさらに価値が高まってきます。ときにはウイルスのせいでもよらない花が咲いて、それが一攫千金になったり、ますます球根の価格が上がり、とうとう現物では間に合わなくなり翌年採れた球根を渡すという、いわゆる先物取引まで行われるようになりました。



そんなことで、どんどんどんどん値段が上がり、資産家のみならず一般の市民まで家や土地を担保にお金を借りて、チューリップの球根に投資をするということが起こりました。ピーク時には、球根1個が熟練労働者の給料の10年分とか、5ヘクタールの土地、あるいはアムステルダムの一軒家に相当するとか、数千万円、1億円と、とんでもないことになってしまいました。

しかし、バブルというのは当然はじける運命で、1637年2月3日、とうとう隣町では「もう球根売れなくなったぞ」という噂が立ち、約100分の1といわれていますが大暴落をして、多くの債務不履行や、破産をするというようなことが起きて、オランダ中の社会問題となります。最終的にはオランダ政府もそれを見逃すことができない状態となって、翌年、ある種の違約料を払えば契約を破棄してもよいという法律まで作って鎮静化に努めたといわれています。それ以降、今まで正常な取引がなされています。

考えてみると、馬鹿なバブルというのはもうないのかも知れませんが、世界中にはマネーというものがある、何処へ行ったらもっと儲かるのかと行き先を常に探してる訳ですし、人間の欲望と群集心理がある限り、投資や投機というものはなくならないのかも知れません。私自身は健康に気を付けて健全な暮らしをして、そして、これからの素晴らしい季節を、花を愛でながら心豊かな生活を送っていききたいなと思っております。

本日の卓話は、井上ワイナリーさんからお越しいただきました。高知でブドウの栽培から始めてワインを製造して販売しているという、高知県の産業界からも、私たちが属している農業界からも注目をし、期待をしているお話を伺うことができると大変楽しみにしております。よろしく申し上げます。



■ 本日のプログラム [3月30日]

新入会員スピーチ

明治安田生命保険相互会社 高知支社長

森田 啓介 会員

会 長	中 村 裕 司
副 会 長	入 交 章 二
幹 事	関 雅 文
副 幹 事	中 澤 清 一
会報責任者	隅 田 和 稔

● **ロータリーソング** 「四つのテスト」

● **国際奉仕委員会より**

書き損じはがきキャンペーンは、多くの皆さまのご協力により9,567円の寄付金が集まり、入金いたしました。ご協力ありがとうございました。



● **退会挨拶**

◎真田直也会員



この度4月1日付で異動になり、高知ロータリークラブを退会させていただくことになりました。行き先は3月18日に内命が出ますが、社内ではセクハラかパワハラかしたんだろうと言われてますが、一切そういったことはありません。後任は京都支店から天野という女性の支店長が参ります。

高知には4年2カ月いました。その中で高知ロータリークラブの活動はもちろん、皆さま方の職場旅行や家族旅行、個人的なご旅行でも大変お世話になり感謝の気持ちで一杯です。プライベートでは皆さまと、大丸さんとかひろめ市場のキッチン花でよくお酒も飲みましたし、クルーザーで釣りに連れてっていただきチヌを釣ったこと、東部の海に潜ってニナ貝を採って茹でて食べたこと、本当に楽しい思い出ばかりです。

私はサラリーマンですので転勤でいろいろな土地に行きますが、高知の皆さまのような密なお付き合いは、今後ないんじゃないかと思うと寂しい気持ちで一杯です。コロナの収束もまだまだ見えてこない状況ですが、収束した際にはぜひJALさんや弊社をご利用いただき、旅行にもどンドン行っていただけたら幸いです。

最後になりますが、高知ロータリークラブの皆さま方のご健勝とご多幸をお祈りしまして私の挨拶とさせていただきます。4年間お世話になりどうもありがとうございました。

(3/18転勤先が決まりました…JTB広島支店 営業担当部長 広域交流事業担当 中国四国9県の交流事業推進担当)

● **幹事報告**

- ・ガバナーノミニエジグネート候補に徳島RCの吉岡宏美氏が指名されました。
- ・3月23日はロータリー休日です。





● ゲストスピーチ

ブドウ栽培からワイン造りにかける思い

井上ワイナリー(株) 営業部長 梶原 英正 氏



私は1978年4月7日生まれ、あと少しで43歳になります。香南市野市町の出身で、東小学校、野市中学校、高知商業を出て東洋大学へ進学しました。好きなものは醸造酒。日本酒、ワイン、ビールが大好きです。趣味はサーフィン、登山。特技はバレーボール。高知は自然も豊かで、都会で就職するよりも働いていない時間が充実するのではないかと思います。高知県内の企業に就職した後、2007年井上石灰工業に入社しました。配属は第2営業部という農薬の製造部門です。そこで担当していたのが東日本、主に山梨と長野のブドウ産地、それと韓国、台湾のブドウ産地も担当していた経験から、2018年井上ワイナリーに出向という形になりました。

親会社の井上石灰工業は、1884年創業、今年で137年の会社です。現在、県内に4つの事業所があります。本社は稲生、蛸が丘オフィス、研究開発と生産をしている仁井田工場、あとブドウやトマトの生産をしている育種グループが香南市の山北にあります。

2012年、弊社の農薬を使って大きな粒のブドウ、巨峰とか藤稹よりも大きなブドウを作りたいと海外の国で望んでいるという声があり、タイのロイヤルプロジェクトに採択をされました。実は、これがワイン造りのきっかけになります。プロジェクトが無事成功したあと、ある関係者から、自社にブドウを栽培する技術と安全な農薬を持っているのであれば、高知の産業としてワイナリーの独自化を進めてみてはという一言をいただきました。ということで、畑の開墾からスタートすることになりました。

高知は、県の農業統計にもブドウ栽培面積が載っていない非常に珍しい県です。ですから、高知でブドウ栽培をした経験はもちろん、試験ほ場もありません。高知の高温多湿・多雨の条件下で醸造用ブドウの栽培が可能かどうか、ブドウに向けた土地を耕作放棄地の中から探すことからスタートしました。何十年も放置されている土地で、社員が重機でカズラを除去したり、鎌で刈り込んだり、堆肥を漉ぎ込み、中耕していく、苗を植えるといった作業を取締役も一緒になって、社員全員で進めていきました。当然ブドウ棚の資材も高知県では販売していません。農薬でお世話になった山梨県の商社にお願いして、説明書やビデオをいただいて、我々で棚を作りました。一からスタートの会社ですので、あまり人に頼らず何かあっても自分たちでバックアップや対応ができるようにしようということで、一つ一つの作業を自分

たちの手でやっていきました。

井上ワイナリーの設立は2016年4月。ワイン専用品種のブドウ栽培から醸造までを高知県で行うワイナリーとしてスタート。醸造所は先月25日に無事竣工して、先週醸造機器も海外から到着、搬入しました。昨日から配管工事が始まり、醸造免許は3月31日に南国税務署から付与いただけるようになっていきます。

現在、ブドウ畑は県内に5カ所。最初に定植したのは稲生と山北、次に手結。それぞれ土地の特徴があります。稲生は良質の石灰の産地として有名ですが、盆地のような地形で放射冷却による寒暖差がブドウ栽培に非常に適しています。山北は日本一といわれるほど日照時間が長い土地で、水はけも良く、美味しいみかんの産地でブドウ栽培にも適しています。手結山は太平洋に面して温暖で、海からの光の反射も含めて潮風、ミネラル分を浴びて海が感じられるようなワインに仕上がっています。梶原は、最高最低気温が山梨県の甲府盆地と同じです。雨量が非常に多いのですが、私たちが期待するほ場の一つでもあります。同じく平地よりも標高の高い佐川町と香北町にも畑を広げています。香北の畑をお願いしているのは老人クラブの方々です。遠く離れた畑に、わざわざ私達社員が出張っていくのではなく、うちのおじいちゃんが作りゆう、おばあちゃんが苗を植えたというように、地元の方々に積極的に作業に参加していただくと、地域の方々も自分たちのこととして捉えていただけないか。そうして土佐ワインの関係人口を増やす取り組みもしていきたいと思っています。



国内ワインの消費は緩やかですが安定成長しています。また、国内で製造しているワインも緩やかに上昇しています。国内で栽培されたブドウを使用して国内で醸造された、いわゆる日本ワインといわれるものは、日本全体で製造されているワインの20%、流通量にするとわずか4.8%しかありません。80%は、濃縮果汁や冷凍果汁などを使用したワインです。私たちは特徴ある高知の気候を生かして、この市場を狙っていきたくと思っています。

かつて、日本ワインの味は酷評されていました。食用の余剰ブドウを原料にしていたため糖度が低く、水っぽかったり、原料のブドウの状態が良くなかったというのも原因の一つです。しかし、近年は栽培に力を入れて、高品質なブドウを栽培することで世界に通用するようになり、イギリス、フランスの権威のあるコンクールで金賞を獲得するワイナリーも

続出しています。山梨、長野、北海道のワインだけではなく、高知と同じように雨が降る宮崎の都農ワイナリーさんも生食用のブドウからスタートして、近年は海外のワインコンクールで受賞するなど、私たちのお手本になる取り組みをされています。日本ワインは雑味が少なく繊細でフルーティーなのが特徴で、同じく繊細な味わいを持つ日本料理との相性は非常によいといわれています。

私達も高知でワインを造るからには、県外の方から見ても高知にあるソルフードと合うワインを造りたいと考えました。味覚センサー「レオ」という、食べ物との相性を科学的に数値化する機械があります。これでカツオの塩たたきと山北で栽培したブドウで醸造したワインを合わせたところ、なんと98.3点という結果が出ました。やはり、その土地の食べ物とそこで育ったものを原料にしたお酒の相性は、非常によいのだということを再認識しました。

私たちがワイン造りを通して行っていきたいことがあります。

一つは、観光振興ワイナリーです。東西に長い高知県で点在している多くの魅力的な観光地をワインで結びたい。地元の食材、例えば土佐あかうし、ジビエ、ウナギ、ウツボのタタ



キ、四方竹などと、各市町村の気候や風土を生かしたブドウ畑で造ったワインを楽しむ。土佐流のワインリズムを生み出すことで、バス旅行や宿泊客の増加に繋がるのではないかな。また、ブドウの収穫体験、剪定体験といった体験型の観光ツアーや新酒祭り、土佐ヌーボーというお祭りの開催など、これから検討していきたいと考えています。

二つ目が雇用の創出です。私たちの畑では、収穫時には営業スタッフ、製造スタッフ総出で朝の5時から手伝いをしています。来年5月にはショップ兼醸造所が稼働します。ブドウ畑



も拡大をしていきます。そのためには、若い人だけでなく、地域の老人クラブの方々や退職された方なども採用して、社会に積極的に携わっていける環境を整えていきたいと思っています。

三つ目が地域貢献で、耕作放棄地を整備してきれいな畑に変えていくという活動です。実際、耕作放棄地の近くに住んでいる方からは、ネズミや蚊が減ったなどいろんなメリットをお聞きすることもあります。



関係人口が増えて、地元産ワインができれば、あのお祭りを復活させられるといった地域の声もいただいています。私たちが畑を作ることで、活性化した地域もあります。また、地元でできたワインと食材を合わせた商品も作って、ふるさと納税や道の駅での販売を積極的に行っています。

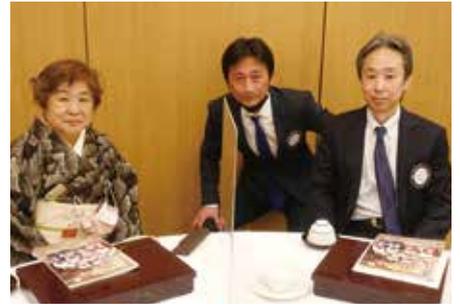
2月にできた醸造所は、三宝山の麓、のいち動物園のすぐ前で南国市、土佐山田方面が見渡せる高台に建っています。今年8月に収穫するブドウで醸造したワインが完成する2022年5月をグランドオープンとしています。これから1年ぐらいかけて、醸造所としての製造機能のほか、観光事業者として誘客ができる仕組み、ソフトの立ち上げなどを行っていく予定です。

「おらんくのワイナリー」の夜明けはこれからです。高知の皆さんに愛されるワイナリーを目指して、今後も私たちは活動を続けてまいります。本日はご清聴ありがとうございました。



TO SA





◎ 33会 例会を開催いたしました



3月14日(日) 晴天でしたが強風の中第375回33会が高知GCにて開催されました。今回はなんと5組20名の大人数の参加となりました。



当日は森田会員のお勧め先がスポンサーをされている明治安田生命レディースの決勝戦という事もあり、高知GCのスタート待ちが近年では珍しい状態になっていました。



なんと二回目の参加で和泉会員が優勝の栄冠に。



この二人に共通点が・・・
なんと岡会員の影響を受けて君波会員が
同じクラブを購入して本日の一騎打ちになります。



もう一つの共通点・・・
お腹もいい感じで競ってます(笑)

◇ 例 会 変 更 ◇

高知南RC	4月 1日	植樹例会(阪)	高知西RC	4月 2日	ロータリー休日(三)
高知ロイヤルRC	4月 6日	ロータリー休日(旭)	高知中央RC	4月 8日	夜間例会(城)
高知西RC	4月 9日	夜間例会(三)	高知北RC	4月26日	ロータリー休日(三)
高知ロイヤルRC	4月27日	夜間例会(旭)	高知東RC	4月28日	ロータリー休日(阪)
高知西RC	4月30日	ロータリー休日(三)			

※例会場ホテル：(三)…三翠園(城)…城西館(阪)…ザクラウンパレス新阪急高知(旭)…ホテル日航高知旭ロイヤル

😊 ニコニコ箱

- 梶原 英正** お車代をニコニコへ。
- 眞田 直也** 4年間、大変お世話になりありがとうございました。おかげさまで充実した楽しい高知の生活でした。皆さま方のご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げます。
- 中村 裕司** 皆さまお彼岸が近づきました。お墓まいりに行きましょう。そして、お花を供えましょう。ご先祖さまあつての私たちの命です。
- 入交 章二** 先週の例会ニコニコでの川崎敦子さんからの「もっとニコニコしましょう!」のお声かけに呼応して。
- 中田 由季** 梶原さま、楽しい卓話をありがとうございます。名刺交換の際、親戚だと知り、失礼いたしました。これをご縁に今後ともどうぞよろしくお願いいたします。ちなみに、井上ワイナリーのワイン大好きです。
- 吉門 文恵** 今年も皆さまのボックスに「高知の企業」53号を配布させていただきました。多くの皆さまのご協力のもと、お陰さまで53年目の発行をすることができました。私も53歳!本日の卓話、井上ワイナリーの特集記事「アフターコロナ・脱都会 田舎で暮らす」のテーマで「高知の企業」巻頭ページに掲載しております。地域振興策の紹介をしておりますので、ご覧くださいませ。高知県の活性化および青少年の皆さんに少しでもお役に立てれば嬉しいです。ありがとうの心を込めてニコニコします。
- 尾崎 典之** 妻にきれいなお花をありがとうございます。妻から笑顔でワクチン接種できてもソーシャルディスタンスは続けようねと言われました。
- 吉村 貴志** 本日の席は星座別、かに座の席は私以外全て女性。幸せな例会となりました。ニコニコです。

◇ 出 席 率 ◇

	総数	出席	欠席	メイキャップ	出席率
3月16日	(-10)87	56	21	0	73%
3月 2日	(-8)87	54	13	12	83%

● 累計額 [3月16日現在]

ニコニコ箱	583,500円	ロータリー <small>さんさん</small> 燦燦基金	132,907円	ポリオ募金	168,000円
-------	----------	--------------------------------	----------	-------	----------

■ 次週のプログラム [4月6日]

ゲストスピーチ
 荒川電工(株) 代表取締役 荒川 浩一氏
 『『SDGs』の取り組み』

創 立 昭和12年10月
 例 会 日 火曜日 12:30~13:30
 例 会 場 三翠園ホテル TEL(822)0131
 事 務 局 高知市本町3丁目2-15 高知新聞放送会館6階
 TEL(824)8660 FAX(824)2529
 E-mail shinairc@joy.ocn.ne.jp
 HPアドレス <http://www.221.ne.jp/kochirc/>